

京都産業大学ギャラリー所蔵品展

下嵯峨薪炭商
小山家に伝わる学びの道具

令和3年9月21日（火）～10月2日（土）



「朝鮮重要物産并特産物分布図」部分

京都産業大学ギャラリー

京都産業大学ギャラリー所蔵品展「下嵯峨薪炭商 小山家に伝わる学びの道具」 展示資料一覧

No	資料名	時代	著者・発行者	所蔵先	員数
1	硯一式	年代不明		京都産業大学ギャラリー	1
2	毛筆	年代不明		京都産業大学ギャラリー	2
3	小學下等第三級 習字帖	明治8年(1875)	文部省 著・発行	京都産業大学ギャラリー	1
4	尋常小學 新定畫帖	明治43年(1910)	文部省 著・発行	京都産業大学ギャラリー	1
5	尋常小學 算術書 (第四学年・第五学年・第六学年)	明治43年(1910)	文部省 著・発行	京都産業大学ギャラリー	3
6	改訂 中等教育 商算教科書 上・下編	昭和2年(1927)	小野十郎 著・大葉久吉 発行	京都産業大学ギャラリー	2
7	珠算練習用傳票	昭和前期	京都第二商業學校研究室編纂・平野書店 発行	京都産業大学ギャラリー	2
8	卒業寫眞記念帖	昭和8年(1933)		京都産業大学ギャラリー	1
9	鮮満旅行日程表	昭和7年(1932)		京都産業大学ギャラリー	1
10	古葉書	昭和7年(1932)		京都産業大学ギャラリー	5
11	集印帳	昭和前期		京都産業大学ギャラリー	1
12	朝鮮のおみやげ品	昭和6年(1931)	朝鮮總督府商工獎勵館発行	京都産業大学ギャラリー	2
13	朝鮮重要物産并特産品分布図	昭和5年(1930)	朝鮮總督府商工獎勵館発行	京都産業大学ギャラリー	1
14	旅行鞆	年代不明		京都産業大学ギャラリー	1

所蔵品展「下嵯峨薪炭商 小山家に伝わる学びの道具」

第1章 学校における学び

学校での学びの道具として、明治～昭和初期に使用されていた教科書等を紹介します。

【尋常小学校・尋常小学校の教科書】

尋常小学校は、初等普通教育を施す義務教育の学校であり、明治19年（1886）の小学校令において設置された。修業年限は尋常小学校4年、高等小学校4年とし、明治40年の一部改正で尋常小学校6年、高等小学校2年とした。高等小学校とは尋常小学校を卒業した者に対し、さらに程度の高い初等教育を行う学校であるが、義務教育ではない。昭和16年（1941）の国民学校令の発令によって尋常小学校は高等学校初等科となり、昭和22年の学制改革により小学校となった。

尋常小学校では習字・算術・地理・歴史・図工等を教えており、ここでは明治後期に使用されていた教科書を紹介する。



『新定畫帖』

【京都市立第二商業学校の教科書】



『珠算練習用傳票』

京都市立第二商業学校は、京都市立第一商業学校の生徒数増加を受け、明治43年（1910）、京都市西陣に開校した。昭和23年（1948）、京都市立西陣商業高等学校と改称したが同年廃校となった。

本資料は、昭和7年頃、京都市立第二商業学校に在学していた小山家14代目当主の息子が使用していた教科書類である。

第2章 学びの旅

学校教育の一環として行われている修学旅行。本章では、昭和初期における修学旅行に関する資料を紹介します。

【修学旅行の歴史】

修学旅行の始まりは、明治中期といわれている。当初は名勝の見学等と軍事教練を組み合わせた形式を取っていたが、やがて軍事的要素を取り除いた各地の見学や観光を主とした教育旅行のみの目的で行われるようになった。

明治 39 年（1906）、文部省と陸軍が朝鮮・満州や韓国への修学旅行を奨励したことを受け、修学旅行の行先に朝鮮や満州を選ぶ例が散見される。1920 年代に入ると、益々その兆候は高くなり、多くの学校が朝鮮・満州を視察した。

京都市立第二商業学校も例外ではなく、朝鮮・満州への修学旅行を度々実施している。

本展示では、昭和 7 年（1932）に実施された朝鮮・満州への修学旅行に関連する資料を紹介する。

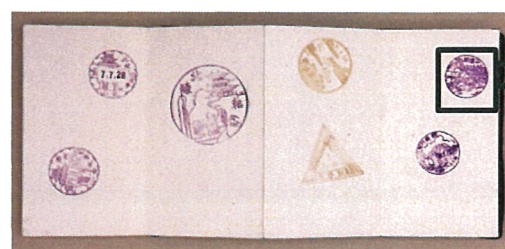
【京都市立第二商業学校の修学旅行】

修学旅行は 7 月 19 日から 8 月 5 日の計 18 日間で行われた。下関から釜山へ渡航の後、朝鮮・満州の各地を見学、帰路は大連から神戸へ大阪商船ウラル丸を使用しての航路だったことがうかがえる。

○展示資料紹介

1 2. 集印帳

修学旅行にて、各地を巡った際に押印したスタンプである。



「集印帳」



スタンプ部分拡大

1 3. 朝鮮重要物産并特産物分布図



「朝鮮重要物産并特産物分布図」

朝鮮総督府商工奨励館が作成した朝鮮半島における特産物の分布図である。修学旅行の際、学生に配布された資料と考えられる。

1 4. 旅行鞆

修学旅行の際に宿泊した「磐城ホテル」や「瀋陽旅館」、乗船した「大阪商船うらる丸」等のステッカーが貼ってあることから、修学旅行で使用した鞆だと考えられる。



旅行鞆



ステッカー部分拡大

【参考文献】

有山輝雄『海外観光旅行の誕生』（吉川弘文館、2002年）

李良姫「植民地朝鮮における朝鮮総督府の観光政策」（『北東アジア研究』13巻、2007年）

米家泰作「近代日本における植民地旅行記の基礎研究：鮮満旅行記にみるツーリズム空間」（『京都大学文学部研究紀要』、2014年）

曾山毅「明治中期に形成された修学旅行と行軍の分離」（『玉川大学観光部紀要』第7号、2019年）

博物館館園実習生による小山家資料の展示



令和3年度博物館館園実習生

博物館館園実習生による小山家資料の展示 資料一覧

	資料名	年代	寸法(mm)短辺・長辺・高さ(奥行)	所蔵先	員数
1	印鑑一式	昭和期	105・102・91	京都産業大学ギャラリー	1
2	そろばん	不明	108・543・25	京都産業大学ギャラリー	1
3	銭枰	江戸期	118・308・23	京都産業大学ギャラリー	1
4	旅行パンフレット	昭和初期	118・261	京都産業大学ギャラリー	1
5	船内パンフレット	昭和初期	114・230・1	京都産業大学ギャラリー	1

博物館館園実習生による小山家資料の展示 資料解説

○小山家の商売道具

京都下嵯峨の旧商家、小山家から寄贈された資料の中から商売にかかわる道具を紹介します。

1.印鑑一式

小山家で使用されていた印鑑。小山家の屋号である上ヶ木屋の印字がみられる。朱肉付き。

2.そろばん

小山家で使用されていたそろばん。展示されているそろばんは一珠五つの形となっており、現在普及している一珠四つの形とは異なる。

3.銭枰

小山家で使用されていた銭枰。展示されている銭枰は一朱銀を計量することができる。

○昭和初期の船旅

所蔵品展で展示している修学旅行の旅行と関連して、京都市第二商業学校の修学旅行で乗船した「うらる丸」の姉妹船である「うすりい丸」の船内パンフレットと昭和初期の旅行パンフレットを紹介します。

4. 旅行パンフレット

昭和初期、ジャパン・ツーリスト・ビューローの夏のパンフレット。

満州・支那から日本へ安くて便利な東亜遊覧券を案内している。船内パンフレットのうすりい丸は大連から下関・神戸を航海し、6400 トンの大きな船であった。

パンフレット内部にはその他に大連から上海・青島などの航海案内や代金・等級が記載されている。

ジャパン・ツーリスト・ビューローは、明治 45 年（1912 年）創立。大正 2 年（1913 年）には神戸・下関に案内所を開設。その後、横浜・長崎にも開設した。※3

5. 船内パンフレット

昭和初期、大連航路の優秀船「うらる丸」の姉妹船として、大阪商船株式会社により設計された客船「うすりい丸」の旅行パンフレット。見開き 2 ページにわたり、船内や航路の案内が記されている。

パンフレット左側は、「うすりい丸」の設備案内。神戸を出帆し、門司、下関を經由、大連までを結ぶ。船内部の設備はすべて国産品のみが使われており、本資料の写真から和風のエントランスやフランス式の一等室など極めて豪華な客船だったことが読み取れる。

パンフレット右側には、目的地である満蒙の小案内と航海図や船客運賃などが記載されている。小案内の一部には、「特に今回の満州事變に於ける皇軍轉戦の跡を訪はれるのも亦感慨深いものがありませう。」の一文がある。

【参考文献】

文化遺産オンライン、<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/411145>

（最終閲覧日 2021 年 9 月 9 日）

国史大辞典編集委員会 編『国史大辞典第八巻』吉川弘文館、1987 年

JTB100 年の歩み、<https://www.jtbcorp.jp/jp/100th/history/>

（最終閲覧日 2021 年 9 月 9 日）